

廖承志研究会第二回研究会

2011年6月18日（土曜日）

於：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階コラボ4

参加者：王雪萍（プロジェクト代表・東京大学）、大澤武司（熊本学園大学）、
井上正也（香川大学）、杉浦康之（防衛省防衛研究所）、山影統（早稲田大学）、
戴振豊（東京大学）
その他5名

報告スケジュール（報告15分：質疑15分）

- 14:00～14:10 王雪萍（東京大学）：廖承志研究会について
- 14:10～14:40 王雪萍（東京大学）：①廖承志と中国の対日「工作」システムの構築
②廖承志と留日学生・華僑の帰国（王雪萍）
- 14:40～15:10 杉浦康之（防衛研究所）：廖承志集団による日本情報収集
- 15:10～15:40 胡鳴（浙江旅行職業学院）：日本「工作」における廖承志と周恩来
（仮）
- 15:40～15:50 休憩
- 15:50～16:20 山影統（早稲田大学）：廖承志集団と戦後日中経済関係の構築
- 16:20～16:50 大澤武司（熊本学園大学）：①廖承志集団と残留日本人の引き上げ問題
②廖承志集団と日本人戦犯問題処理
- 16:50～17:20 井上正也（香川大学）：日本にとっての廖承志集団の対日「工作」
（仮）
- 17:20～17:30 杉浦康之（防衛研究所）：総括—廖承志集団の対日「工作」の遺産
- 18:00～ 懇親会

議事録：

※研究プロジェクトの説明

プロジェクト代表である王氏より廖承志研究会についての主旨説明がなされた。

※研究構想報告

その後、報告プロジェクトメンバー及び研究協力者による研究構想報告がおこなわれ、その後質疑応答がなされ活発な議論が行われた。各氏の報告内容は簡単に以下の通りである。

・王氏は建国後の廖承志と中国の対日「工作」システムの構築および廖承志集団と留日学生・華僑について報告をおこなった。その中で、廖承志の重要性と「民間先行、以民促官」と留日学生・華僑を活かした中国の対日政策について言及した。

- ・杉浦氏は日中関係について東京事務所（覚書貿易事務所）の活動を中心とする報告をおこなった。東京連絡事務所がもたらした日本の情報とその後の日中国交正常化に与えた影響を視野にいれた研究の必要性について言及した。
- ・欠席した胡鳴氏の報告を代わって王雪萍が行った。
- ・山影氏は日中経済関係の構築についての報告を行った。報告では、LT 貿易後の日中経済関係をその発展の二面性と当時の廖承志集団の役割について言及した。さらに、友好貿易と LT 貿易の関係を中心に行うべきであるとの今後の課題として指摘した。また、質疑では 50 年代の友好貿易を中心とした日中経済関係との比較の視点の必要性が議論された。
- ・大澤氏は、戦後の日中民間人道外交と廖承志集団について、特に積み上げ時代の廖承志集団についての理解枠組みとその起源についての報告をおこなった。廖承志は日本外交において人道外交をどのように位置づけてきたのか。廖承志個人の認識についての理解の難しさについて言及した。質疑では党際外交の困難さと人民外交や中聯部、弁公室の政策の在り方についての指摘がなされた。
- ・井上氏による日本にとっての廖承志集団の対日「工作」の題目にて日中関係における日本側から見る廖承志の役割とその認識の変化についての報告が行われた。そのなかで、1950 年代から一貫して対日政策の第一線にあった廖承志であるが、日本の彼に対する評価や期待する役割は時期によって変化していたことを指摘した。
- ・杉浦氏より総括がなされた。そこで日中関係における特殊関係の構造の形勢と廖承志集団の遺産について述べられた。

※今後の研究会とその方向性

- ・資料をプロジェクトメンバー及び研究協力者の間で共有するシステムの構築。
- ・次回研究会 8 月 4 日上海で周斌氏へのインタビュー（質問表 7 月 3 日まで）
- ・新入会員の紹介：戴振豊氏（東京大学）「中華民国の視点から見る廖承志の対日工作」